

ESLに参加して

環境共生学部 食健康科学科 2年 松尾香織

ESLプログラムに参加して、海外に行って生活することで、英語を学ぶと共に、様々な文化や習慣を自分自身で体験したいという、私の中学生からの夢が叶いました。

モンタナでの生活は、午前中はモンタナ州立大学（MSUB）で英語の授業を受けました。授業では、自分の意見を辞書もメモも見ずに発表する機会が多く、最初は自分の英語力のなさや恥ずかしさで、正直発表するのが嫌でした。しかし、次第に間違っても気にせず、はきはきと自分の意見を言えるようになりました。緊張せずに人前で喋れるようになったことは、私がモンタナで得たものの中でも大きなものです。午後は様々なアクティビティが計画されており、地元の野球チームの試合を見に行ったり、買い物に行ったり、美術館に行ったり、ロデオを見たり、日本で言う保育園のような所に行って日本の文化を伝えたりしました。たくさんのアクティビティの中で、私が最も楽しかったと思うのはイエローストーン国立公園に二泊三日で行ったことです。イエローストーン国立公園では、たくさんの種類の動物を間近で見たり、人生で初めてバッファローのハンバーガーを食べたり、乗馬をしたり、ラフティングをしたりしました。乗馬は、周りを大きな山々に囲まれた、本当に自然がいっぱいの場所で1時間しました。今まで生きてきて、見たことのないぐらい美しい自然に囲まれて、本当に幸せでした。



毎日、午前中は授業、午後はアクティビティをして、思いっきり楽しんで疲れて帰ってきた私と一緒にホームステイをした友達を温かく迎えてくれたのは、ホストファミリーでした。私たちは英語を完璧に喋れたわけではありませんが、その日の授業のこと

やアクティビティのことはもちろん、日本の生活や食文化、言葉など色々なことをホストファミリーに話しました。ホストファミリーが言っていることが理

解できなかったり、私たちが言いたいことがホストファミリーに伝わらなくてもどかしくなったりしたこともあり、日本で不安だったことが現実になってしまった。と、最初はどうしたらよいか分かりませんでした。その時はお互いが表現を変えてどうにかして伝えようとしたり、辞書を使ったりして解決できたため、まったく問題なく、むしろ逆に話題が広がったり、笑いが生まれたりしました。ホストファミリーは日本にとっても興味があり、私たちに日本に関するしつもんをたくさんしました。そして、アメリカではこうだよ、詳しく教えてくださいました。また、ホストファザーはとても料理が得意で、毎日いろんな種類の、色んな国の料理を食べることができ、とても幸せでした。



ESL プログラムに参加して、様々な人たちと関わることができて、自分がとても狭い世界で生きているだということ強く実感しました。宗教や民族、色々な違いで価値観や大事にしているものも違い、知らないことがいっぱいあり、もっと色々な所に行

行って、見たことのないものを見て、色々な人と関わりたいと思いました。肝心の英語は上達してペラペラ喋ることができるようになったとは言えませんが、ホストファミリーとはもちろんのこと、カフェやスーパーなどで店員さんと話すことで、最初は全然聞き取れなかった英語が、帰る頃にはある程度聞き取れるようになっており、素直にとっても嬉しかったです。



長いようで短かった3週間、日本では絶対に経験できないことをたくさんさせていただきました。プログラムを運営してくださった先生方、いつも私たちを温かく迎えてくれたホストファミリー、参加を応援してくれた家族や友達、たくさんの人々に感謝

して、この貴重な経験を絶対に忘れることなく、これからの人生に生かしていきたいと思います。